

雑賀崎・田野地区の未来を考える
地域ワークショップ 実施報告書

目次

I. 実施概要

1. 開催目的
2. 各ワークショップの実施概要
3. 開催日時・参加人数・場所

II. 各回の主な議論内容の様子

1. 第一回ワークショップ（地域のらしさ（課題と魅力）と未来像）
2. 第二回ワークショップ（活用したい場所と方法）
3. 第三回ワークショップ（実現したいまちづくり）

III. ワークショップ 実施結果統括

1. 総括
2. 参加者アンケート結果

I. 実施概要

1. 開催目的

地域住民が自ら地域の活用できる資源や魅力について再確認し、地域の将来像やそれぞれができること等を考える機会とすると共に、住民が望む「地域の未来像」を抽出し、エリアビジョンに反映させることを目的に、全3回のワークショップを実施した。

2. 各ワークショップの実施概要

第一回：田野地区3グループ、雑賀崎地区2グループの計5グループに分かれ、各地域の「らしさ」（課題・魅力）と「未来像」について、模造紙と付箋を用いてグループ毎で意見交換を実施し、発表を行った。

第二回：田野地区3グループ、雑賀崎地区3グループの計6グループに分かれ地域の「らしさ」と「未来像」を踏まえ、活用したい「場所」と「方法」について、地図と付箋を用いてグループ毎に意見交換を実施。グループワークでは観光・経済大臣（稼ぐ産業をつくる）、生活・環境大臣（持続できる環境）、調整大臣（収益性と地域貢献の両立）の3役を参加者に設定し、それぞれの視点から意見交換出す形で実施した。

第三回：田野地区3グループ、雑賀崎地区1グループの計4グループに分かれ、第二回で提案された「場所と方法」から想定した3案（A案：歩いて味わう、生活そのものが体験になる町、B案：文化を守るために体験できる港町、C案：暮らすように滞在する町）を軸に、地域の力でできること、地域の力だけでは難しいこと、心地よく暮らすために、必要なことの3点について、3分割シートと付箋を用いて意見交換を実施し、発表を行った。

3. 開催日時・参加人数・開催場所

第一回：令和7年9月30日（火）18:30-20:00

参加者56名（田野地区30名、雑賀崎地区26名）

第二回：令和7年11月23日（火）18:30-20:00

参加者33名（田野地区19名、雑賀崎地区14名）

第三回：令和7年12月23日（火）18:30-20:00

参加者19名（田野地区14名、雑賀崎地区5名）

開催場所：いずれも雑賀崎小学校

Ⅱ．各回の主な議論内容の様子

1．第一回ワークショップ（地域のらしさ（課題と魅力）と未来像）

【田野地区】

①グループでは、手つかずの自然、「高津子山から灯台までの遊歩道」「浪早ビーチ」が魅力として挙げられた。課題は「道が狭くて暗い」「駐車場がつかれない」ことである。未来像として「道が価値をつくる」とし、道を整備し古民家を活用する構想や、「何もないことがブランドになる」という意見が出た。

②グループでは、地域の人の明るさ、自然の豊かさが魅力として挙げられた。買い物や交通の不便さ、空き家、高齢化が課題とされた。生活・交通基盤の整備と空き家活用が未来像として共有された。

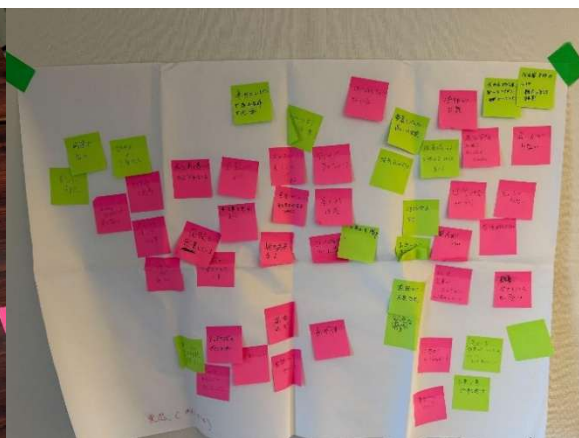
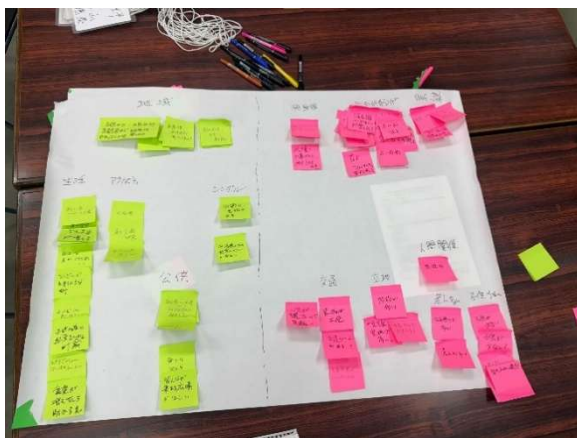
③グループでは、魚のおいしさや住民同士の深いつながりが地域らしさ（魅力）とされた。スーパーや病院が遠いことが課題であり、便利すぎない「ちょうどいい暮らし」を守りながら生活機能を集約することが未来像として理想とされた。

【雑賀崎地区】

④グループでは、海と夕日、漁師町文化が魅力とされた。交通の便の悪さ、若者減少が課題として挙がり、空き家を活用し、観光と暮らしが共存する安全なまちを目指す意見が出た。

⑤グループでは、路地でのフレンドリーな会話や「はた売り」の文化が挙げられた。道が狭く高齢者の移動が困難な点が課題とされ、「子どもも大人も雑賀崎を好きでいてほしい」という未来像が語られた。

【第一回地域ワークショップの様子】



2. 第二回ワークショップ（活用したい場所と方法）

【田野地区】

①グループでは、活用したい具体的な場所として「浪早崎」「浪早ビーチ」「潮騒の小径」「高津子山へ行く道」などが挙げられた。「浪早崎」は夕日がきれいなスポットであるため、「山道の整備」や道路の整備を行いたいという意見が出た。「潮騒の小径」は「昔の通学路」であったと思い出が語られた。役割を決めた大臣の視点からは、「空き家を民泊に」山道の整備のために「雑木林を伐採する」といった活用に向けた発言や、「車の通れない道」などの生活インフラ改善を求める声が挙がった。

②グループでは、活用したい場所や資源として「高津子山」「万葉の歌」「波音」が挙げられた。高津子山は「昔ロープウェイがあった」という歴史が語られ、また波早ビーチは「砂がやわらかい」「水がキレイ」といった自然環境が評価された。観光・経済大臣などの視点からは、この静かな場所を利用して「海辺でリモート」「サテライトオフィス」「休憩所」などを設け、ワーケーションの拠点として活用したいという提案が挙がった。

③グループでは、活用したい場所として「波早ビーチ」が挙がった。「浪早ビーチ」を「集合できる場」とし、「バーベキュー」や「キャンプ場」として人が集う空間への期待が語られた。また「カフェ・軽食」といった飲食機能も求められた。生活・環境大臣などの視点からは、「切通しの掃除」や「歩道とトイレの整備」が必要であるという意見や、人が来ることで生じる「現在の駐車場ではマイクロバスの受け入れが難しい」といった受け入れ課題が指摘された。

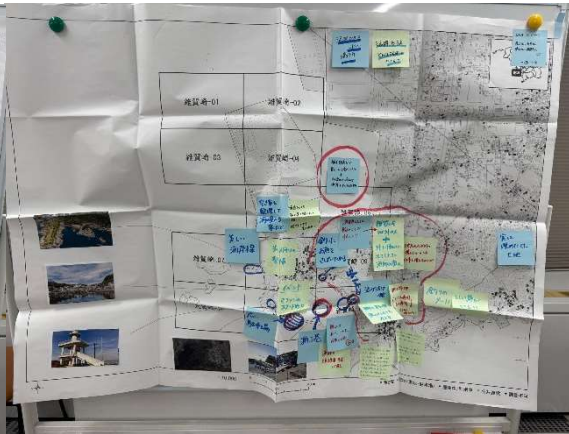
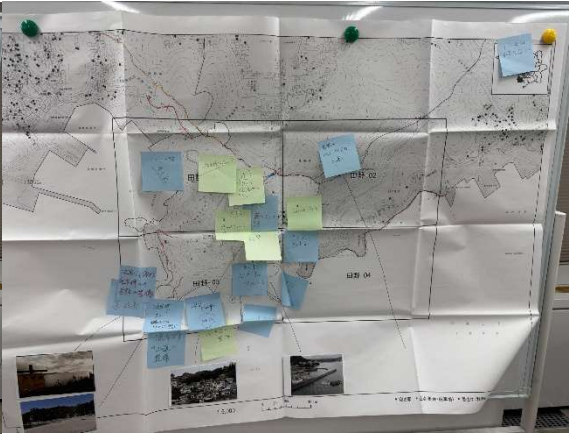
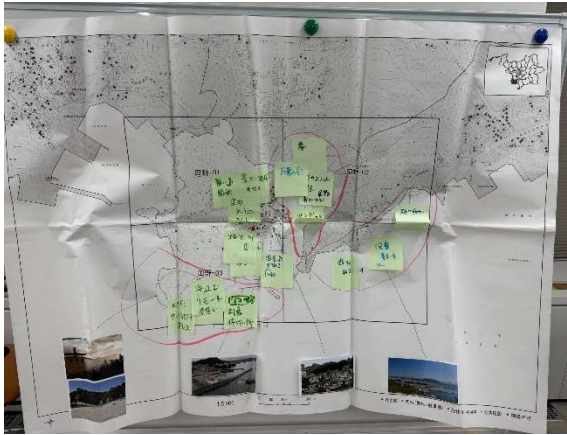
【雑賀崎地区】

④グループでは、活用したい場所として「青天の洞窟」「番所庭園」などが挙げられた。「住民が地域を盛りあげたい」「コミュニティが近い」といった前向きな思いがある一方、観光客に対しては「見て撮って帰るだけで、消費を伴わない」という懸念が示された。生活大臣の立場から観光客・移住者と共存していくにあたり「雑賀崎ルール」の必要性が主張され、観光の視点からは「民泊（漁師）」「あせ寿司」等を作り消費を伴う観光につなげたいという発言があった。

⑤グループでは、活用したい場所として「雑賀崎灯台」「水族館の跡地」「弁慶岩（弁慶が蹴ったとされる岩）」などが挙げられた。これらは単なる観光地ではなく例えば「昔デートした灯台」などといった「思い出の場所としての強い思い入れが語られた。観光・経済大臣の立場からは、これらを巡る「海辺をゆったり走るサイクリングコース」「山コース」「アマルフィー散策 街コース」といった周遊ルートが提案された。一方、生活・環境大臣からは、「道がこわれている」「山火事が不安」といった懸念や、「漁業のくらしを守りながら」進めるべきだという発言がなされた。

⑥グループでは、「漁港」「美しい海岸線」「空家」が活用したい場所として挙げられた。加えて「釣りのメッカ」「いい魚がいる」といった資源への誇りが語られた。観光・経済大臣の立場から、活々料理館を活用した「釣ったお魚をさばいてくれる」体験コンテンツの提供や、漁港を「イベント・マラソンのスタート地点」として活用する案が出された。生活・環境大臣からは、「空家を整理して海に見える家」にする案や、「歩く人向けの整備」「広い駐車場」の確保を求める発言があった。

【第二回地域ワークショップの様子】



3. 第三回ワークショップ（実現したいまちづくり）

A案：歩いて味わう、生活そのものが体験になる町

B案：文化を守るために体験できる港町

C案：暮らすように滞在する町

【田野地区】

①テーブルでは、A案とC案をテーマに議論した。案の実現にあたり、地域の力だけでは難しいこととして「道の整備」「トイレが少ない」「海に見えるカフェ」「古民家活用」が挙げられた。地域でできることとして景観を良くするために「花を植える」こと、心地よく暮らすルールとして「ゴミに気をつけてほしい」「騒音」「野良犬にエサをやらない」といった意見が挙げられた。

②グループでは、A案とC案の複合的な実現策を議論した。案の実現にあたり、地域の力だけでは難しいこととして、「トイレと休憩スペースを広げる」「街灯設置と町内の街灯代（電気代）の負担」、「車も通れる道の整備」、「土地の所有者があやふやな空き家のリフォーム」「店を出せる場所の確保」などが挙げられた。さらに「若い人を増やす」「何度来ても楽しんでもらう仕掛け」「代行してくれる人を探す」「野犬の対策・駆除」といった人材・仕組みに関する課題も出された。一方、地域でできることとして、「トイレをきれいに」「草木の伐採」「桜の木をボランティアと手入れ」「イノシシ道のまわりの整備」「避難ルートを楽しめる道に」といった整備・保全活動のほか、地域で取り組んでいきたいこととして、「祭りの復活と集客」「防犯意識」「地区同士や地区別の話し合いの場（井戸端）での認識共有」「潮騒の小径（旧の道）の認知度向上」が挙げられた。また「空屋の登録申請」や「漁協・自治会・役所での話し合い」も案の実現にあたり進めて行くべきこととして挙げられた。心地よく暮らすためのルールとしては、「野犬の駆除」「利益追求とルールを継続するバランス」「BBQを貸すがルールを利用者に伝えること」が共有された。

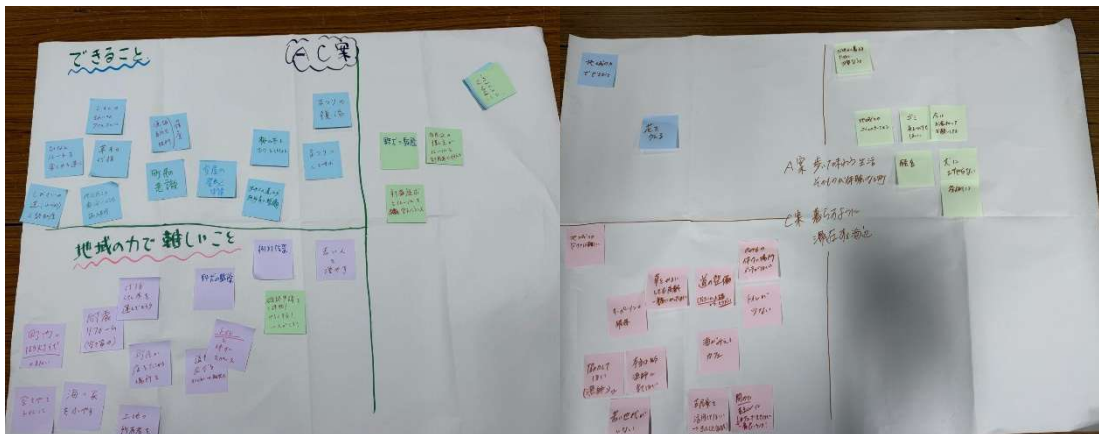
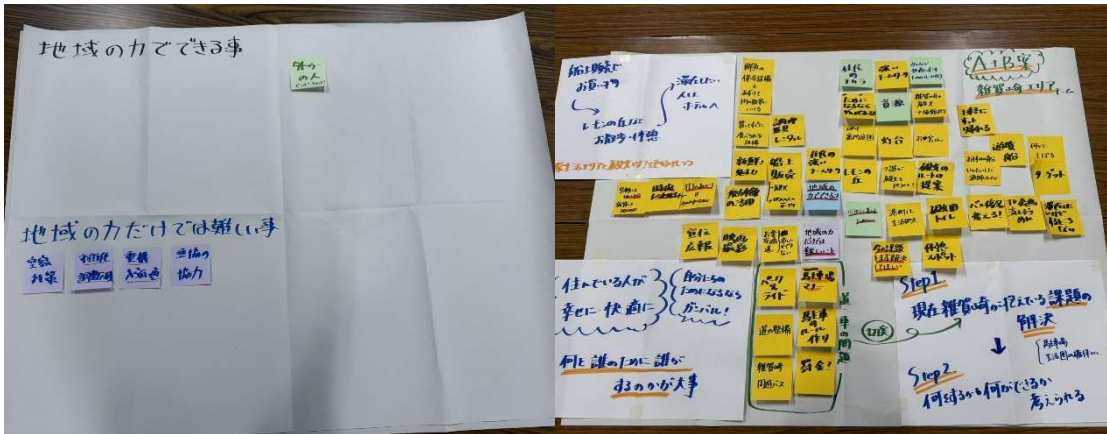
③グループでは、A案とC案をテーマに議論した。地域の力だけでは難しい事として、景観を向上させるための「電柱地中化」や「環境整備」、「空き家対策」といった主にはハード面での課題が多く挙げられた。上記の課題は地域だけで解決することが困難であり、法的な課題も含め、行政や外部のサポート必要だという意見が挙げられた。また、心地よく暮らすためのルールの枠においては、「タトゥーの人が来るのは、ピンチ？チャンス？」という独自の意見が挙がった。具体的には、今後インバウンド（外国人観光客）など多様な文化や背景を持つ新たな来訪者層を受け入れるにあたり、地域としてそれを「脅威（ピンチ）」と捉えるか、あるいは「機会（チャンス）」と捉えて受容していくかという、住民のマインドセットやルールのあり方に対し、多様な文化を受け入れる体制や考えが今後住民間でも必要になってくるのではないか、という考え方が示されました。

【雑賀崎地区】

④グループでは、A案とB案をテーマに議論した。地域の力だけでは難しいこととして、交通・インフラ面での「雑賀崎周遊バスの運行」「路駐の解消」「パーク&ライドの導入」や、「廃旅館の活用」が挙げられた。また、観光・体験を充実させるための「鮮魚の保冷設備」「買ってすぐに食べられる飲食施設/設備」「調理設備のレンタル」「休みの漁師や引退した漁師さんの船を活用した遊覧船の運行」「番所庭園やレモンの丘の活用」といったことや、「宣伝・広報戦略」が外部の力も必要なこととして挙げられた。地域でできることとしては、「自分たちのためになら、がんばる」「何を誰のために誰がおこなうのが大事」という考え方が掲げられ、住民が自分たちのことに対して主体的に取り組む姿勢の必要性が意見として挙げられた。心地よく暮らすために必要なこと（ルール）として

は、「住んでいる人が幸せに・快適に」過ごせることが大前提とされた。その上で、来訪者との共存に向けて船上販売等、多くの人を訪れるタイミングで「駐車マナー」をきちんと守ことや、港町は生活拠点であることも踏まえ「生活圏の安全性」を確保していくことが重要だとの意見が挙げられた。

【第三回地域ワークショップの様子】



Ⅲ. ワークショップ 実施結果統括

1. 総括

【各地区の総括】

・ 田野地区の総括

全3回のワークショップを通じ、田野地区では高津子山や潮騒の小径、波早ビーチといった美しい自然景観があることに加え、地域の人が明るく繋がっていて、人々の温かさが感じられることが地域の魅力として挙げられた。一方で、密集住宅であることから、家の前の路地が狭く、広い用地の確保が困難なゆえに駐車場も不足していることや、高齢化に伴い空き家も増加していることなどが意見として出され、これらの生活導線の不十分さや空き家対策が地域の課題として挙げられた。

地域の未来像としては、魅力として挙げられた自然景観や、課題となっている空き家を活かすことが重要であるとの意見が挙げられた。例えば、サテライトオフィスの設置によるワーケーションの適地としての利用や、道路の整備によって景観を巡る周遊性と生活の利便性を高めることが挙げられた。これにより、住民にとって暮らしやすく、かつ来訪者も訪れやすい環境を整えることができる。

これら未来像の実現においては、地域においては草木の伐採や道の清掃など、環境保全等の取組が挙げられた一方で、空き家対策や道の整備等については地域で解決することが難しく、行政や外部事業者との連携も必要であるとの認識が示された。

・ 雑賀崎地区の総括

雑賀崎地区では、海や夕日といった自然景観、漁師町文化や豊かな食資源、船上販売といった港町としての特徴、住民同士の距離が近いというコミュニティといったことが地域の魅力として挙げられた。一方で、田野地区同様に傾斜地の密集住宅となっていることから、生活導線や交通の不便さあり、空き家も増加していることが課題として挙げられた。加えて、船上販売（はた売り）実施時には多くの人々が訪れるものの、近隣住民の駐車場への無断駐車や路上駐車が見られ、住民の生活環境へ影響が出ていることや、景観を見て写真等に撮って帰るだけで地域に消費が落ちないといったことも課題として挙げられた。

地域の未来像としては、子どもも大人も雑賀崎を好きでいて欲しいという思いや、住んでいる人が「幸せに」「快適に」という前提のもと、例えばサイクリングコースの設定、空き家を活用した民泊、漁船を活用した遊覧船、買ってすぐ食べられる飲食施設などの、地域と観光を組み合わせた体験コンテンツがありつつも、住民と来訪者が共存できる形が重要であることの認識が示された。

【全体総括】

田野・雑賀崎エリア全体を通じて、豊かな自然景観と地域の食・文化が大きな魅力であり、残していきたいものだという意見が主だった。これらが未来へも継承されていながら、ほどよく生活ができる環境を整えられればという意見が多数であり、このことから、地域に大量の人を呼び込むのではなく、今のある姿との調和を考慮しながら、地域の持続性を高めていくことが、地域住民の望む未来だと考えられる。

一方で、両地区共通の課題として、交通アクセスの不便さ、生活利便性の低さ、高齢化、空き家などの問題が挙げられ、生活導線の改善や高齢化による人口減少とそれに伴う空き家の増加が、地域の大きな課題として認識されていた。

これらの課題を解決しながら、未来にむけた持続的なまちづくりを進めるために、まず地域の人ができることとして、住民の当事者意識を高め、協力体制の構築や環境美化といった景観維持の取り組みなど身近にできることがあげられた。

他方、地域のみだけでは解決が難しく、外部の力が必要なこととして、生活導線等のインフラ整備や、空き家を活用するための手法の整理、一定規模の投資が必要な施設整備などがあげられた。

併せて、外部の人の受け入れるという視点においては、現在の穏やかな環境を守りつつ来訪者（観光客）や移住者・事業者を迎える「生活との共存や調和」を前提とするべきだという意見も提示された。

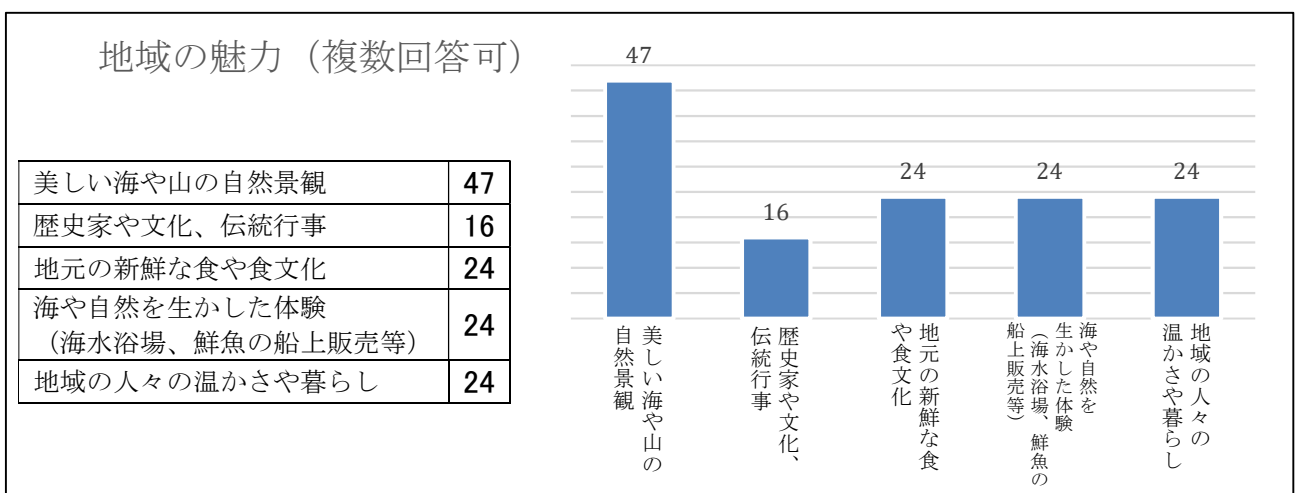
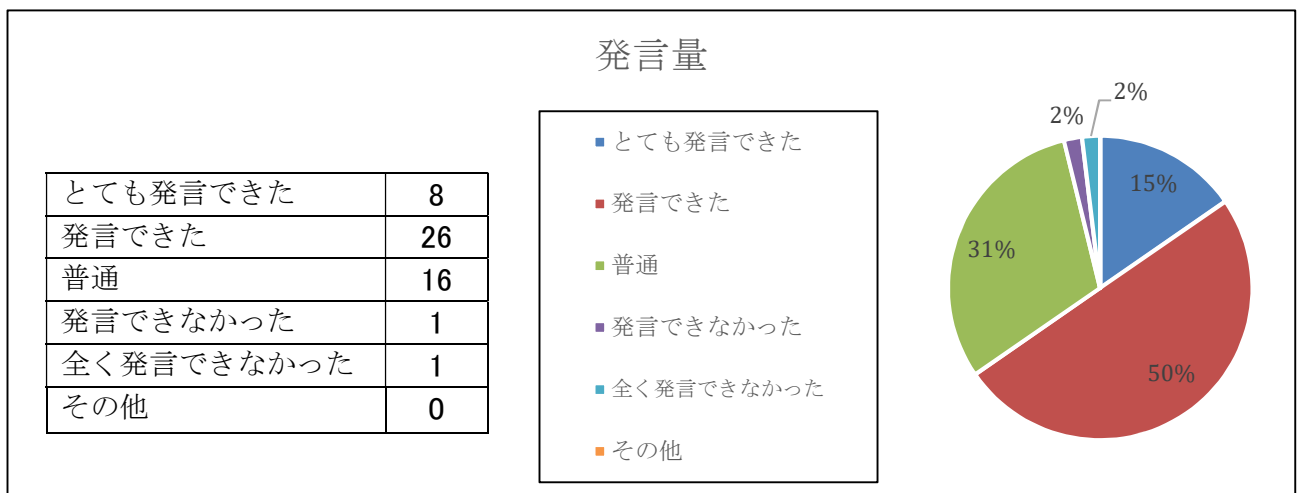
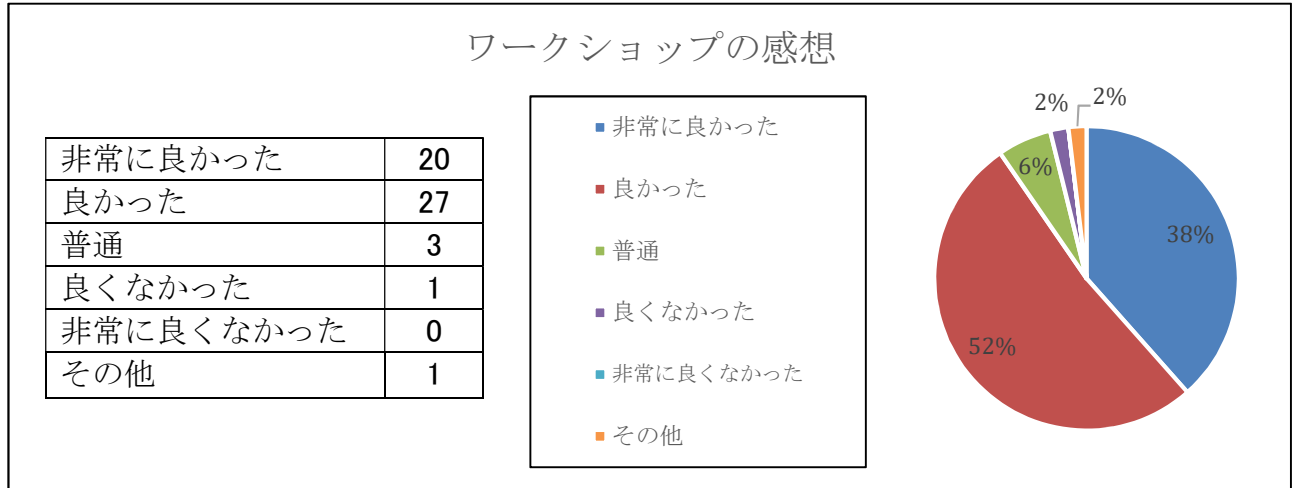
上記のように、今回のワークショップを通じては地域の魅力や課題、将来像が抽出された。

今後は、外部からの来訪者・移住者・事業者に対する地域住民の受け入れ体制（ルールづくりや許容度の整理）の整備や、接道が狭小な場所に立地する空き家等の活用手法についての検討なども進めて行く必要があると考えられる。

2. 参加者アンケート結果

<第一回ワークショップ> (参加者：56名 回答数：52)

【選択式設問の回答】



【各設問に対する回答】

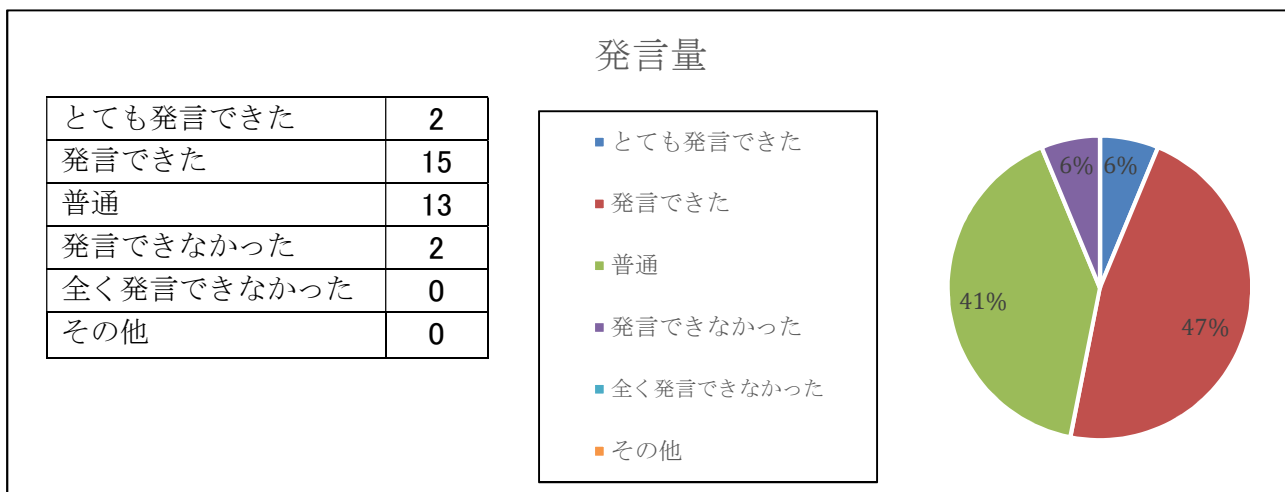
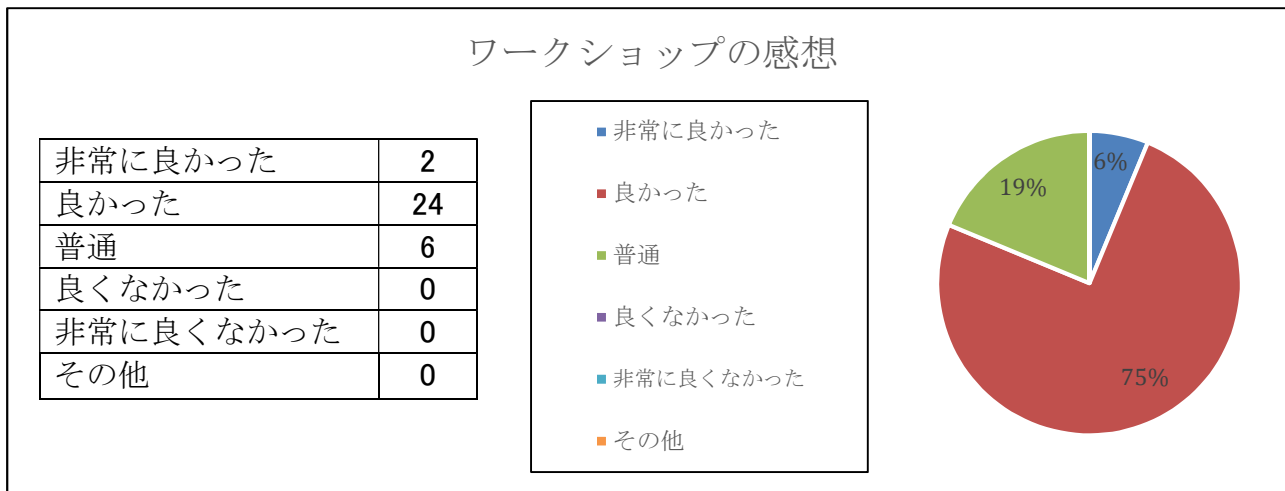
- 将来この地域がどのようなまちになっていることを望みますか。また、そのために必要なことは何だと思えますか。
- ・ 基本的に道路が充実すれば 若い人も出ていくことなく、老人も住み続けることが可能になるように思います
- ・ 漁師まちの力が残る、暮らしの場としてつづく、観光地すぎない、顔見知りで安心して暮らせる
- ・ すみやすいまちをけいぞくする
- ・ 静かな町であってほしい
- ・ 子供達の声がひびくまち
- ・ 移住して来ても定住につながりにくい事に目を向けるべき。なぜなのか？子供の通学路を安全な道に。空き家の解体などに助成金を出してほしい。
- ・ 若い方や子ども達が生まれ育った雑賀崎が好きで居てくれること。
- ・ 若い人が、多くなっているほしい
- ・ 自然を残しつつ、そのよさを発信できるまちになってほしいと思います。教育面で、雑賀崎の地にある学校として特色ある教育を展開できればと思います
- ・ 和歌山の観光の拠点。交通機関と漁業従事者、飲食業
- ・ 活気があり、自然豊かなまち、人の温かさ
- ・ 安全対策のできている町に（空き家、雑木）。漁業関係の人口増、地域が誇れる産物、農業にも目をむける
- ・ 人が増えてまちで買い物も通院も外食もすべてが出来るようなところになってほしいです
- ・ 空地、空き家の整理と住宅とその他の施設の住み分け
- ・ 自然を生かした観光産業や生活環境の構築
- ・ 傾斜になっているところに道をつける方法、他の町を参考にしてつけてほしい。そこから景観の良さが出てくると思います
- ・ 県道、山道（潮騒の小径）の整備。道路整備、子供が増え、小学校が存続する
- ・ 元気な町、子供からお年寄りまで住みやすい
- ・ 道路、観光、スポーツ施設（海洋）
- ・ たくさんの方が住んでいるまちになれば良い
- ・ 美しい港を汚さないように他府県から遊びに来て欲しい
- ・ 子どものいるまち、路線バスのあるまち
- ・ にぎやかな楽しい地域
- ・ 道路（交通の便）が良くなれば
- ・ 自然豊かで老人、子供、若者が集うまち
- ・ 他府県からの観光にも来てもらいたいが、静かに暮らせるまちであってほしい
- ・ 温かさやしずかさも残しつつ、誰が住んでも不便がないような環境にしてもらいたい
- ・ 道を広くして生活しやすいまちにしたい。道路整備、街灯の整備。
- ・ 自宅付近の駐車場や道を広げて欲しい
- ・ 人と人が手と手を取り合って助け合える。そのためにはゆるす心、想う心。
- ・ 道を広くすみよい町にしてほしいです
- ・ 展望台、休憩場等があれば人が多く来てくれてにぎやかになる

●今回のワークショップについて、何かご意見やご要望があればご記入ください

- ・わざわざ東京の会社をたのんで将来像を考える機会を得られたのは良かったです。お金もかけていると思うので、本気で得られるものが欲しいです
- ・このワークショップのゴール（出た意見をどうするのか）を知りたいです。
- ・行政の心づもりは？心せよ！
- ・田ノ浦・雑賀崎で分けられたくない。せっかく意見を交換する機会なので、ミックスしてはどうか？
- ・雑賀崎によく来る外部の方の意見も必要かと。
- ・現実的に難しいところを前提にお話がしたいです。空き家を活用したくても状態が悪くリフォームに500万円以上かかる家ばかり。
- ・グループワーク楽しめました
- ・第一回目で進行がうまく進まず後半良くなってきた。次回2回目はスムーズ実施できるよう努力する
- ・田野、雑賀崎を交えたワーキングもあって良いと思います
- ・とても素敵なワークショップでした。これから田野でお世話になるので色々な方々とお話が出来て良かったです。
- ・まちづくりを、前向いて進んでほしいです

<第二回ワークショップ> (参加者：33名 回答数：32)

【選択式設問の回答】



【各設問に対する回答】

- 地域の魅力を高めるための意見・提案、また提案を実施するための具体的な場所や方法等のアイデアがあれば教えてください。
- ・波早ビーチの活性化利用。イギリスの学校にはカリキュラムに海洋科目があるので、和歌山市に来てもらえるような海洋施設の設置。また、水族館の設置。
- ・今のいくつかの地域を盛り上げる取組（空き家支援、和大学生の取組、今回のワークショップ等）をしてきているが成果を活かせてないと思う。
- ・まちの人にお金が還元される仕組み
- ・この会で出た構想を地域に還元できるように継続的な検討を進めていってほしいです
- ・食と散策（景観）を組み合わせて1日過ごせるまち（いやしのまち）になればと思います
- ・コース別が入ったマップや、電動自転車のレンタル等
- ・活々料理館の活用を考えて 例えば、あせ寿司の体験教室のようなものを年に数回行う（今なら上手なおばあちゃんたちがいらっしゃる）
- ・ハイキング、散策道の案内ちらしや看板をつくる。海、山共にいい道がたくさんある
- ・食文化を広める
- ・駐車場の整備が必要
- ・漁港を活用できないか
- ・居住環境と観光資源の共存。集客の為の資源活用⇒船上販売⇒BBQ等の連動性。漁業と生活と観光を、いかにチームワーク性を持たせるか
- ・遊歩道等、観光道路地図を作る（道の標識等も設置）
- ・田野漁港の活用が現在以上に制度上緩和されると、おもしろい企画ができるのでは
- ・波早崎の先端まで行けるようにすれば景色もまた変わるかも
- ・現在、住んでいる（生活している）住民と他から訪問する人々が、交流できる拠点が増えるといいと思いました。
- ・オーバーツーリズム対策（マイナス面）も必要
- ・ライトアップなどをして見に来る人が、車で来るならやはり駐車場などが必要になると思う
- ・夕陽を眺めながら期間・時間を決めてカフェができるといいな
- ・だれでも、まち内外を問わず利用しやすい店等。町内の清掃や整理を実施することから始める
- ・景色がいいところが多いのでフォトスポットを作る
- ・新しい言葉としては、マジックアワーは良い。今まである高津子山の展望。コーキングエリア（地元の人と外からの人の交わりが可能性をつくる）

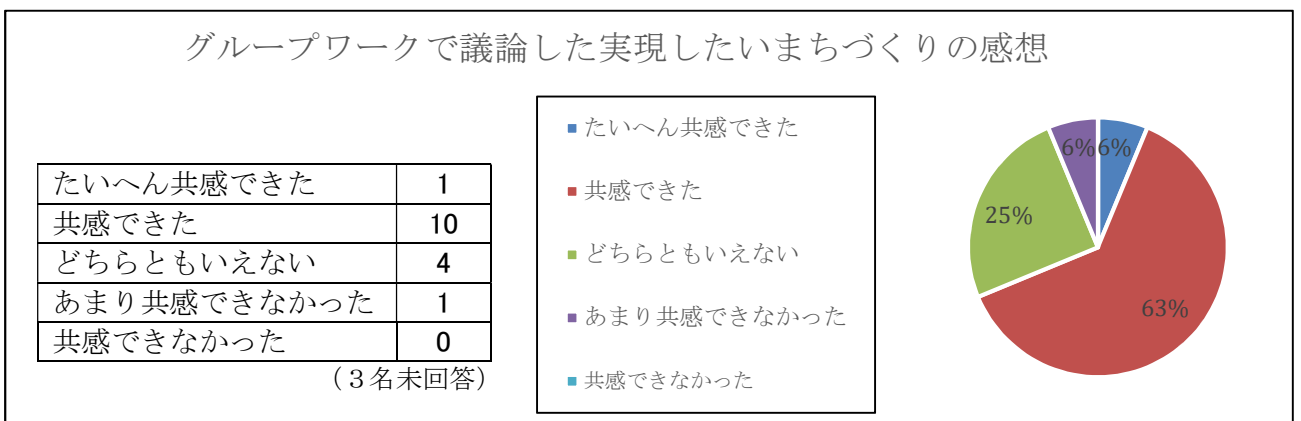
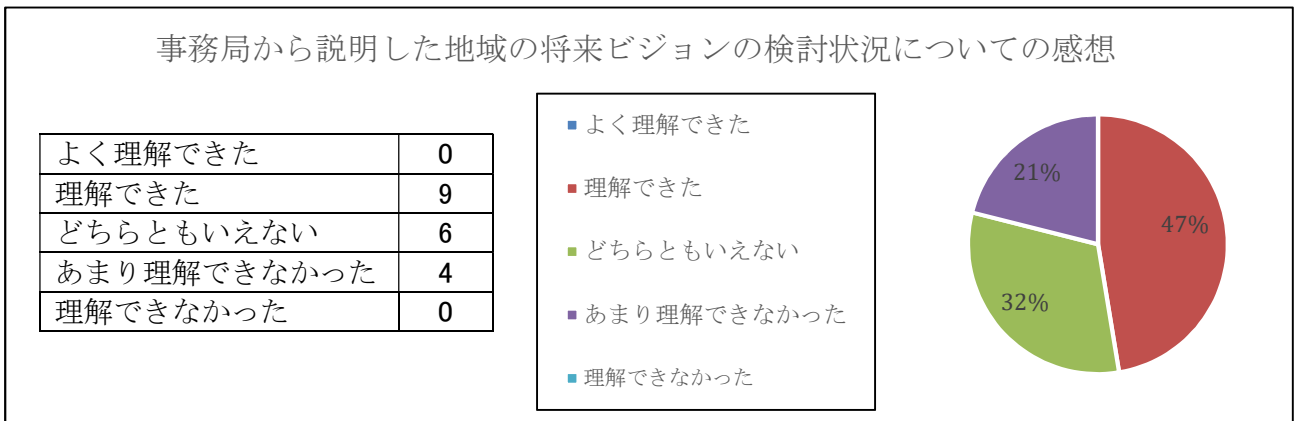
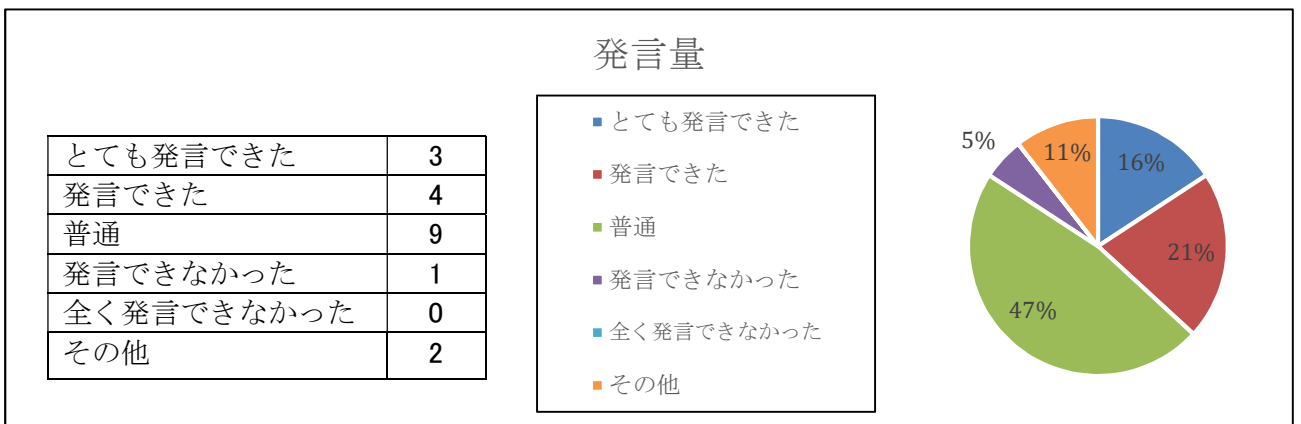
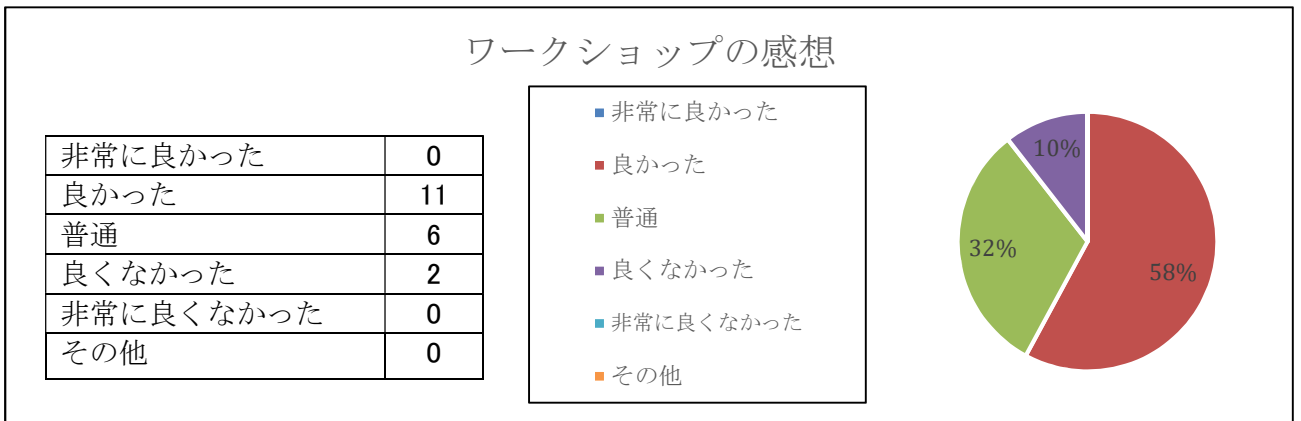
●まちな観光と生活環境について、あなたならどのように関われると思われましたか。

- ・地域の産業、お店、観光等について昔の良さを再度よみがえさせる必要あり
- ・個人の責任をもったの取組みには限界がある
- ・住民生活と観光には、相反することも発生する
- ・生活と観光のバランスをどうとるか
- ・地域の誇りにできるものを育成
- ・話を聞いてみる
- ・すべての飲食店が昔ながらの食文化を伝える
- ・今まで地元のために何もしてこなかったので関りをもちたいと思います
- ・地域（地元）のとの共存
- ・Uターン経験者としてのアドバイス
- ・協力ぐらいはできます
- ・他から来た人を受け入れる

●今回のワークショップについて、ご意見やご要望があればご記入ください。

- ・各会合での成果を簡単に記入して次の会に活かせるような進め方がよいのでは
- ・第3回目はある程方向性を決めて議論が出来ればよいと思う
- ・ワークショップの方向性を最初に伝えて欲しい
- ・案が実現できる、と思える展望を持てれば活気づくと思いました
- ・このミーティング後地元民は何をしたらいいですか
- ・雑賀崎の人とお話したいです

<第三回ワークショップ> (参加者数：19名 回答数：19)



【各設問に対する回答】

●地域の将来ビジョンの検討状況に関する感想等

- ・食文化を活かす。そのため買物 すぐ食べれるシステム。
- ・田野地区の人数が少なすぎてワークショップとの相違が多い気がする
- ・具体的（図案等）な明示がほしかった
- ・マジックアワー×ライトアップは良いと思いました

●グループワークで議論した「実現したいまちづくり」についての感想等

- ・食事＋観光（町歩きor山海歩き）＋鮮魚買物を数パターンのマップを作成する
- ・道の整備なくして田野の発展は難しいかと思えます
- ・どのグループの意見も同様に感じた

●今後この地域のまちづくりに対し、地域の人・地域外の人がそれぞれどのように関わるのがよいと思うか

【地域の人】

- ・目的を小わけしてまちが発展でき、かつ金がおりのシステム。それをだれがするかは、問題であるが
- ・今後も皆で考えていきたい。
- ・地域独自の考え方、規則等も含めて検討する必要がある。
- ・他地区・市外の人々を好意的に受け入れられる人的環境造り
- ・漁協さんの権限が大きすぎて何も出来ないの、そこを何とかしていただきたいです
- ・地区民の話し合いによる協力関係と方向性の統一

【地域外の人】

- ・買物時の道路交通がスムーズにできるよう、協力してほしい。
- ・市の協力が必要
- ・実際に住んで、お魚を食べて地域の一員となってくれたらと思います
- ・当該地域のルールの尊重等。
- ・外の人でも、この地区に何かしたいと思う人がいれば参加してもらっても良いと思う（このワークショップにも）